

# 日ごろからできる 水害への備え!

～ 6月からの大雨に注意～



2023年に内容を一部修正しました

近年、全国各地で記録的な大雨や台風による災害が激甚化・頻発化し、大きな被害が出ています。昨年8月には、東北と北陸で線状降水帯が発生し、多くの場所に大雨特別警報が発表されました。また、9月に発生した台風14号は九州を中心に西日本から北日本の広い範囲で暴風や大雨をもたらし、八頭町でも福祉避難所および自主避難所を開設しました。

全国どこでも大きな災害が起こる可能性があります。自分の命、大切な家族を災害から守るにはどうすればよいか、日常生活からどのような対策をとっていくとよいか、日ごろから、家庭、職場、地域などで考えましょう。

## 日ごろからの対策

- ☑ **防災マップを確認しましょう**
  - 自分の住んでいる家、集落は安全な場所か。(洪水浸水、土砂災害など)
  - 避難場所はどこか。
  - ☑ **避難経路等を確認しましょう**
    - 家族で避難所等の下見をしており、複数の避難経路を考える。
    - 大雨、夜間で道が見えないおそれがあるため、水路等の危険な場所を確認する。

● 家族一人一人の役割や行動を決めておき、マイ・タイムライン(避難行動計画)をつくる。

### マイ・タイムライン(避難に時間のかかる方の例)

| 気象・避難情報        | 行動内容                           |
|----------------|--------------------------------|
| 3日前 台風予報       | 家族の予定を確認<br>避難時の持ち物を準備         |
| 2日前 大雨・強風注意報発表 | テレビ等で情報収集                      |
| 1日前 大雨・暴風警報発表  |                                |
| 当日 台風接近        | 携帯電話を充電、避難しやすい服装に着替える、<br>避難準備 |
| 高齢者等避難発令       | 避難を始める                         |
| 避難指示発令         | 避難完了                           |
| 台風到達           |                                |

### ☑ 天気予報を確認しましょう

- 梅雨や台風シーズンなど、洪水が起こりやすい時期は、テレビ・ラジオ・インターネットなどで天気予報等を確認する。
- 大雨や洪水等の注意報や警報を見落とさない。

### ☑ 家の内外の安全を確認しましょう

- 家周りの水路にゴミ等がたまっていれば取り除く。
- 通路や出入口に荷物を置かない。
- 雨戸や瓦、雨どいなどが傷んでいないか確認する。

### ☑ 避難時の持ち出し品や備蓄品を確認しましょう

- 普段服用している薬、マイナンプールカード、貴重品など自分に必要な持ち出し品を確認する。
- 必要な備蓄品は、両手が使えりユックサクなどに最低3日分を準備しておく。(防災マップ参照)

## 緊急時の心がけ

### ☑ 避難情報が発令されたら、速やかに行動しましょう

- 危険な場所に住んでおられる方は、避難指示までに避難所等へ必ず避難する。ヘルメット、懐中電灯などを準備し、運動靴で避難する。
- 自分の家は大丈夫と思わず、少しでも危険と感じたら避難する。

### ☑ 避難する時は、みんなと一緒に行動しましょう

- 単独で避難することは非常に危険なため、家族や近所の人たちと行動する。
- お年寄りや子どもを優先し、落ちついて行動する。

\*\*\*\*\*

災害を少しでも減らすためには、自分の身は自分で守る「自助」、地域の皆さんで協力して助け合う「共助」が最も重要なポイントとなります。



ゴール11

**住み続けられる  
まちづくりを**

包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する

地球上の陸地面積のわずか3%に相当する都市が、エネルギー消費量の60〜80%、炭素排出量の75%を占めていると言われています。

これらの都市に関連する課題を解決するための目標がゴール11「住み続けられるまちづくりを」です。具体的なターゲットの中では「水関連災害による被害者数の大幅削減」「気候変動の緩和と適当、災害に対する強靱さ（レジリエンス）を目指す政策の導入」などが言及されており、「防災」の分野においてもSDGsと密接な関係性があることがわかります。

## レジリエントなまちへ

聞き慣れない「レジリエント／レジリエンス」という言葉ですが、SDGsの17の目標と169のターゲット

ットの文言の中では、繰り返し使用されています。元々「回復力」「弾力性」などの意味を持ち、SDGsにおいては、自然災害が起こっても迅速に復旧できる強靱さなどの意味で用いられています。レジリエントなまちづくりが求められている一方で、近年、防災・減災等の基盤となるインフラの老朽化が指摘されています。



ゴール9

**産業と技術革新の  
基盤をつくろう**

私たちの生活の基盤となるインフラ。個人でできることはあまりないように感じられるかもしれませんが、災害復旧などへの募金も目標達成の近道かもしれません。

ここにもSDGs

本町の管理する道路橋は、約4割が建設後50年を経過しており、20年後には、約8割の橋が50年を経過することになります。そのような状況のなか、レジリエントなインフラを

維持するため「八頭町道路橋梁長寿命化計画」を策定し、計画的な点検・予防修繕を実施しています。



▲毎年約50橋の点検を実施しています。

今後は、ロボットカメラ等の新技術の活用を検討し、更なるコスト削減や安全性の向上により、持続可能なインフラを実現していきます。

## 増大する災害リスク

気象庁によると、今後、温室効果ガスの排出が高いレベルで続く場合、1日の降水量が200mm以上となる日数や短時間強雨の発生頻度は、今世紀末には20世紀末の2倍以上になると予測されています。また、気候

変動に関する政府間パネル（IPCC）の評価報告書によると、人間の影響が大気、海洋および陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がないことが指摘されています。私たち一人一人の行動が気候変動の対策につながるのです。



ゴール13

**気候変動に  
具体的な対策を**

防災・減災に向けたまちづくりだけでなく一人一人にできることも多くあります。災害の原因となり得る気候変動への対策を意識して生活していくことが求められています。

ここにもSDGs

## 私たちにできること

温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が求められています。身近なことから始めてみましょう。

- ▼ クールビズ・ウォームビズ
- ▼ 若桜鉄道やバスを利用する
- ▼ アイドリングストップ